

■ 市長から市民のみなさんへ

市長 白平 博文



■ お詫びの言葉もありません

山陽オート主催レースの場外発売を他場（飯塚、川口など他のレース場）に依頼した際、他場の職員に対しその都度人件費（超過勤務手当）を支払いますが、その人件費から所得税を源泉徴収し、税務署に納付することは本市の義務とされています。

ところが、合併の年の平成 17 年 7 月から平成 22 年 3 月までの源泉徴収所得税（47 件、7,573,075 円）が、何年もの間、納付期限（人件費を支払った日の翌月 10 日限り）を徒過したまま、税務署に納付されることなく、まるまる出納室に眠っていたことが最近になって発覚しました。直ちに全額税務署に納付しましたが、税務署から何らかの沙汰があるはずですし、市役所としても、その原因について早急に調査し、再発防止策を検討したいと考えております。

ギャンブルというオートレース事業の性格から延滞税等を市民の税金から支払うことは許されませんが、この報道に接して、市職員の意識にどこかたるみがあるのではないかと感じられた方は決して少なくないと思います。

信じられない事故がいまだに生じていることに対し、市民のみなさんに心からお詫び申し上げます。

■ 心ない事件も発生しました

上記の市役所の事故が報道された翌々日、今度は江汐公園のバラ園で、夜間、バラの花約 120 本がもぎ取られ周辺にばらまかれるという事件が発生しました。最近、全国的にも残

忍で悲惨な事件が多発していますが、身近で起きたこの心ない事件には、さすがに悲しさと怒りに心が震える想いでした。

■ 総会シーズンが終わりました

5 月は各種総会のシーズンでした。たくさんのご案内をいただきましたが、同じ日時や近接した時刻に行事が重なったため、かなりの総会には代理のものに出てもらいました。それでもできるだけ自ら出席するように心掛け、ご挨拶の後、議事を傍聴させてもらいました。平成 21 年度の事業内容や決算からは、幹事・役員のご苦勞と会員の協力が忍ばれるものが多く、平成 22 年度事業の更なる発展を期待したことでした。

山陽小野田市は、総体として地域力も市民力も着実に前進しているように見えます。「総合計画」では“活力ある住み良さ創造都市”を目指していますが、「都市計画マスタープラン」によると、その手法は、二つの都市核（JR 厚狭駅周辺、JR 小野田駅～市民館周辺）と二つの地域交流拠点（JR 埴生駅～埴生市街地周辺、サッカー場～公園通り周辺）を結ぶ四つの“地域連携型”のまちづくりを想定しています。「各地域の活力を大切にしながら、しかし連携を忘れずに。」これが私たちが決めたまちづくりのルールです。どうぞ、時折、都市計画課の出前講座をご利用ください。

対話の日

6 月 24 日(木) 19:00 ～
中央福祉センター 2 階